

八戸私立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針・検討課題 改定版(案)に係るパブリックコメント結果

1. 実施期間 令和6年2月5日(月)～令和6年3月5日(火)の30日間
2. 意見提出件数 4件(個人4人)
3. ご意見の概要及びご意見に対する考え方

No.	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ■金浜小、種差小、大久喜小は鮫小学校との統合が望ましく、南浜中は鮫中との統合が望ましい。スクールバスの利用で利便性が増す。 ■島守小、島守中も、南郷小、中沢中と統合を検討すべきである。 ■学区が広くなりすぎてスクールバスでカバーすることに無理がある場合は、小中一貫教育として全てを統合し、宿泊施設(寮)をつけた学校とし、希望者は全市的には入れるような学校として考えることも必要である。 ■地域の象徴としての学校という考え方を打破するためにも、行政の強い指導力を望む。 	<p>児童生徒にとって望ましい教育環境について、今後、保護者や地域住民の方々にご意見をいただきながら検討を進めて参ります。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ■壊滅的な少子化は国レベルでの対策がなければ止めようがなく、八戸市ができることは学校を早期に再編することである。 ■各地域において強い反対が起こるかもしれないが、クラス替えもできず、部活動も種類が限られるような環境が子どもたちに良いとは思えない。 ■一度出来上がった人間関係がずっとそのままというのは楽かもしれないが、良くも悪くも集団で揉まれるというのは大事だし、クラスに馴染めなかった子にとっては、変わらない環境は地獄でしかない。 ■八戸市の将来のため、大ナタを振るっていただきたく、計画にも明確に反映させることを希望する。 	<p>市教育委員会では、児童生徒にとって望ましい教育環境を第一に考えており、いただいたご意見については今後の参考とさせていただきます。</p>

<p>■最低限、次のような統合が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金浜小、種差小及び大久喜小は鮫小に統合 ・南浜中は鮫中に統合 ・豊崎小は三条小に統合 ・豊崎中は三条中に統合 ・轟木小及び多賀小は多賀台小に統合 ・南郷小及び島守小は函南小に統合（将来を見据えて） ・中沢中及び島守中は長者中に統合（将来を見据えて） <p>■小規模校はできるだけ再編するべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江南小は根城小に統合 ・是川小は函南小に統合 ・是川中は長者中に統合 ・江陽中は小中野中に統合 ・明治小は田面木小に統合 ・明治中は根城中に統合 <p>■もはや一刻の猶予もなく、毎年1校ずつでは間に合わないため、一斉に動き、準備が整ったところから統合すべき。</p> <p>■計画には、反対を恐れずに5年を目途に大規模統合を行う旨明記し、教育長と市長が力を合わせ、力強く推進していくことを望む。</p>	<p>児童生徒にとって望ましい教育環境について、今後、保護者や地域住民の方々にご意見をいただきながら検討を進めて参ります。</p> <p>少子化に伴う学校の小規模化が一層進行していることから、望ましい教育環境を整備することは喫緊の課題であり、本基本方針・検討課題では検討開始の優先度を明記する一方、検討期間は設定しないこととしました。</p>
<p>■廃校の利活用（例えば、公文書館、乳児院、動物愛護センターなど）についても検討しておくべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中核であった学校が新しい役目を与えられれば反対意見は少なくなるし、地域の衰退も一定程度防げる。 ・新たな箱モノから作ることは難しくとも、既存施設を活用すれば、これまで作れなかった必要な施設を設置できるのでは。 	<p>廃校の利活用については、今後の施策の参考とします。</p>

3	<p>■現在、豊崎小と豊崎中の生徒数減少が顕著なのは、昨今の少子化、町内からの人口流出と、地区外からの居住希望者の開発制限（市街化調整区域への指定）が大きく影響している。</p> <p>■豊崎中は、元は豊崎、志戸岸、豊間内の各地区の生徒が通うため、これらの地区の中央に位置していたが、豊崎町が八戸市に合併したことにより八戸市の最西になった。五戸町との境界付近に位置しているため、豊崎中学区と三条中学区の中央に新中学校を設置するのもよい。</p>	<p>児童生徒にとって望ましい教育環境について、今後、保護者や地域住民の方々にご意見をいただきながら検討を進めて参ります。</p>
4	<p>■文部科学省の手引が今回の改定の論拠となっているが、この手引には「小規模校を存続させる場合」の考え方も掲載されている。</p> <p>■島守中をはじめ小規模校のほとんどは、仮に統合を目指すとしても、隣接の学校が遠いという実情があり、統合しても何年も経たずに過小規模校となることが想像できるので、統合しないで存続させる場合の考え方も改定版にあってよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、地域内の小学校と中学校が小中一貫校となって存続することも選択肢としてあってよい。 ・中学校の部活動は、地域移行の流れで子どもたちの選択できる部活動が多くなりそう。 ・ICT を活用しての他校との交流学习もよく行われるようになってきており、人数が少ないからというデメリットが克服されようとしている。 ・地域内の歩いて通える学校の存在は貴重。 ・子どもは地域の宝でもあり、地域コミュニティの核としての学校の存在は大きい。 	<p>ご指摘のとおり、文部科学省の手引には、「小規模校を存続させる場合の教育の充実」について記載されていますが、学校統合を選択しない場合の方策として記載されているものです。</p> <p>児童生徒にとって望ましい教育環境について、今後、保護者や地域住民の方々にご意見をいただきながら検討を進めて参りますが、検討の結果、学校統合を選択しない場合においては、当該手引に即した方策を検討して参ります。</p>
	<p>■この適正配置について、子どもたちの意見も聞いてほしい。</p>	<p>児童生徒にとって望ましい教育環境について、今後、保護者や地域住民の方々にご意見をいただきながら検討を進めて参りますが、そのプロセスにおいて、児童生徒の意見を聴くことも検討して参ります。</p>